

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(2)-ウ	アジア・太平洋地域の安定と平和に資する平和人権協力外交の展開	施策	① 国内外に向けた平和の発信と次世代への継承
			施策の小項目名	—
主な取組	平和祈念資料館事業			
対応する主な課題	②戦後72年が過ぎ、沖縄戦の悲惨な体験の記憶が薄れていくなかで、「命どう宝」の平和を希求する沖縄の心を次世代に継承し、どのように国内外に発信していくかが課題である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
沖縄戦の実相・歴史的教訓を次の世代に正しく継承し、平和を希求する「沖縄のこころ」を国内外に発信することを目的に様々な企画展に取り組んでいる。「子ども・プロセス企画展」や「児童・生徒の平和メッセージ展」、専門的な特別企画展等を年間を通して取り組み、来館者増につなげる。		H29	H30	R元	R2	R3
				477千人 総入館者数	479千人 総入館者数	481千人 総入館者数
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	子ども生活福祉部女性力・平和推進課	【098-866-2500】		・特別企画展の開催(6~7回)、教育現場と連携した取り組み、歴史的教訓を次世代に引き継ぐ人材 ・戦争体験証言の多言語化(70人分) ・「平和への思い」発信・交流・継承事業(R元~R3) ・戦中・戦後戦争体験証言の収録・多言語化・WEB公開(R2~R3)		

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名	平和祈念資料館展示活動事業						R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度： 特別展、児童・生徒の平和メッセージ展、子ども・プロセス企画展、ギャラリー展、ミニ企画展を開催した。 OR4年度： 特別展、児童・生徒の平和メッセージ展、子ども・プロセス企画展、ギャラリー展、ミニ企画展、夏休み子ども向け企画、特別講座等を開催予定。
県単等	直接実施	28,380	24,480	26,075	28,419	27,253	33,753	県単等	

予算事業名	平和祈念資料館管理運営事業						R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度： 平和祈念資料館の管理運営に要する受付、警備、清掃、機械設備の保守点検等の外部委託、施設の一部設備の更新工事や施設・設備の修繕を行った。 OR4年度： 引き続き、平和祈念資料館の管理運営に必要な受付、警備、清掃、機械設備の保守点検等の外部委託及び施設・設備の修繕等を行う。
県単等	直接実施	95,838	106,171	110,717	130,744	146,379	103,602	県単等	

様式1(主な取組)

予算事業名	沖縄平和啓発プロモーション事業（戦後の戦争体験者証言映像収録）								
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
							当初予算額	主な財源	OR3年度： R2年度に収録した30人の証言映像を編集（7カ国多言語の字幕・吹き替え）し、WEB公開した。
一括交付金（ソフト）	委託	—	—	—	13,695	16,368	11,347	一括交付金（ソフト）	OR4年度： 1950年代半ばから復帰までの米軍統治下時代の20人の証言を収録・編集し、WEB公開する。（R4年度は日本語、R5年度は英語に翻訳予定）
予算事業名	「平和への思い」発信・交流・継承事業								
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
							当初予算額	主な財源	OR3年度： アジアの戦争経験国の若者と沖縄、広島、長崎の若者が共同学習（海外組オンライン、国内組対面型で8日間）・シンポジウムを開催した。
一括交付金（ソフト）	委託	—	—	21,963	25,635	26,455	26,455	一括交付金（ソフト）	OR4年度： アジアの戦争経験国の若者と沖縄、広島、長崎の若者が共同学習（参加7カ国〈地域〉、8日間）・シンポジウムを開催する。
予算事業名	沖縄県平和祈念資料館学芸員人材育成事業								
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
							当初予算額	主な財源	OR3年度： 正規学芸員の配置（採用）に伴う人材育成で、指導員の指導を受けつつ、専門性を活かした調査研究や企画展等の内容の充実を図った。
県単等	直接実施	—	—	—	—	2,205	2,205	県単等	OR4年度： 正規学芸員の配置（採用）に伴う人材育成の最終年次で、指導員の助言を受けるも、主となり専門性を活かした調査研究や企画展等の内容の充実を図る。

様式1(主な取組)

活動指標名	平和祈念資料館の総入館者数(常設展示室を含む全ての展示室等への入館者総数)千人				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	445	432	435	77	72	485	14.8%	218,660	大幅遅れ	<p>活動概要</p> <p>特別展、児童・平和メッセージ展(4会場4回/5会場6回予定)、子ども・プロセス企画展(3回/4回予定)、ギャラリー展(3回/3回予定)、新収蔵品展(隔年で実施)、平和の詩アーカイブ展(ミニ企画展)等の企画展を開催した。</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大の影響により、個人・団体ともに来館者数は大幅に減少した。</p> <p>また、特別企画展等開催数は、3回(1会場)での実施が中止となったが、それ以外は規模縮小や日程変更等の対応で実施することができた。</p> <p>隔年実施の新収蔵品展は、寄贈された収蔵資料を寄贈者の想いと共に展示する事で、県民が改めて沖縄戦と平和への思いを考える契機となった。</p>
活動指標名	特別企画展等開催数				R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	18	16	17	15	13	16	81.2%			
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 正規学芸員の専門性を活かした企画展の開催や県民等向け学習会の定期開催を通して誘客を図る。 ・ 資料貸出による平和教育のサポートを通して修学旅行等の誘致を行い、県内学校に平和講話や出前講座等、当館の積極的な活用を働きかける。 ・ ウェブによる多言語化証言映像の発信や展示内容の多言語化による外国人の誘客も図る。 ・ ウェブを活用した情報の発信等の取組みやマスコミへの取材依頼や様々な広告媒体を活用した広報活動を行う。 						<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍で中止や規模縮小や計画変更等あったが、正規学芸員が人材育成事業の指導員の助言のもと特別企画展を実施し、R2年度より新設された「大人のための平和学習」を5月より定期開催し、平和発信・誘客を図った。 ・ コロナ禍で、平和学習キット等の資料貸出による平和教育のサポートや県ガイドラインに基づく感染対策を徹底した中で、平和講話や常設展示室観覧等の受入を可能な限り行った。 ・ 令和2年度に収録・翻訳(7カ国)を行った「戦後の戦争体験証言映像収録事業」の編集(吹き替え・字幕)をし、WEB公開を行った。 ・ 各種企画展等の開催にあたっては、Twitterや当館ホームページ、マスコミへの取材依頼や様々な広報媒体を活用して広報活動を行った。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・入館者数の減少に関しては、新型コロナウイルス感染拡大に伴う臨時休館の実施や3密を避けるため、常設展示室への入室者数の制限を実施したところである。
- ・今後は平和学習キット等の資料貸出や県内学校への出前講座等の県内外学校と連携した当資料館の積極的な活用、県民等に向けた平和学習の定期開催や証言映像移動展の開催、WEB等を活用した情報の発信についても取り組みの強化を検討する必要がある。

○外部環境の変化

- ・前年度同様令和3年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、修学旅行を取りやめる学校も多く、団体・個人ともに入館者数が大幅に減少したところである。
- ・コロナ禍以前の状況としては、当館の入館者数は県外修学旅行生の動向に大きく左右され、修学旅行先の多様化が減少傾向の要因と考えられる。
- ・外国人の入館者は増加傾向にあった。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・企画展等の更なる充実とともに当館の活動内容等を積極的にPRし、来館者増を図る必要がある。
- ・教育機関や観光関係機関と積極的に連携を図り、県外修学旅行生や県内児童・生徒の更なる誘致を図る必要がある。
- ・増加傾向にある外国人への対応を強化する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・正規学芸員の専門性を活かした企画展の開催や県民等に向けた学習会の定期開催を通して誘客を図る。移動展等含めた当館の活動の積極的広報をWEBでの発信やマスコミへの取材依頼等を活用して行う。
- ・資料貸出による平和教育のサポートを通して修学旅行等の誘致を行い、県内学校に平和講話や出前講座等、当館の積極的な活用を働きかける。
- ・WEBによる多言語化証言映像の発信や展示内容の多言語化による外国人の来館者の増加を図る。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(2)-ウ	アジア・太平洋地域の安定と平和に資する平和人権協力外交の展開	施策	① 国内外に向けた平和の発信と次世代への継承
			施策の小項目名	—
主な取組	平和の礎			
対応する主な課題	①沖縄県では、太平洋戦争で一般住民を巻き込む「鉄の暴風」と呼ばれる凄惨な地上戦が行われ、この戦闘で失われた人命は、一般住民を含め20万人余に及び、貴重な文化遺産等が破壊され、沖縄は文字どおり焦土と化した。この沖縄戦の歴史的教訓を次代に伝え、平和を願う沖縄のこころを世界に発信し、平和協力外交地域として世界平和に貢献することが求められている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
平和を願う心を沖縄内外に発信するため、平和の礎について沖縄戦等により死亡したと新たに認定された戦没者名を追加刻銘する。						
		追加刻銘の実施				
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	子ども生活福祉部女性力・平和推進課 【098-866-2500】					

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名		平和の礎事業					R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度	OR4年度
県単等	直接実施	2,745	3,488	23,624	22,370	7,332	7,892	県単等	令和3年度追加刻銘の実施、施設・設備等修繕、刻銘修正箇所にかかる劣化状況調査	令和4年度追加刻銘の実施、施設・設備等修繕、長寿命化計画策定業務委託
予算事業名							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度	OR4年度
		-	-	-	-	-	-			

様式1(主な取組)

活動指標名	「平和の礎」追加刻銘者数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	54	58	42	30	41	-	100.0%	7,332	順調	令和3年度は、令和2年度に新たに『平和の礎に係る刻銘の基本方針』に該当すると認定された戦没者42名について、追加刻銘を実施した。
活動指標名	-				R3年度					
実績値	-	-	-	-	-	-	-			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
	-	-	-	-	-	-	-			令和3年度は、令和2年度に新たに『平和の礎に係る刻銘の基本方針』に該当すると認定された戦没者42名について追加刻銘を実施した。平和の礎が建設された平成7年以降の刻銘者総数は「241,632名」となり、計画は順調し推進されている。追加刻銘の進捗により、平和を希求する沖縄の心を県内外へ発信することができた。
活動指標名	-				R3年度					
実績値	-	-	-	-	-	-	-			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 報道機関を活用した周知（具体例：追加刻銘者数発表、刻銘作業の取材依頼を引き続き行う）。 戦没者の立証にかかる遺族の負担が軽減されるよう、平和の礎へ追加刻銘を希望する遺族へ、適切な説明を行う（具体例：戦没者の戸籍簿が存在しない場合は、戦没者の当時の状況を知っている人に証明書を書いて沖縄戦で戦没したことを証言してもらうように説明する等）。 						<ul style="list-style-type: none"> 報道機関を活用した周知を行った（具体例：追加刻銘者数発表、刻銘作業の取材依頼）。 平和の礎への追加刻銘を希望する遺族からの電話問い合わせに対しては、口頭で回答する以外に説明文を送付し、手続き方法をわかりやすく伝えるようにしている。また直接来課する遺族に対しては、追加刻銘に対する思いを聞いたうえで書類の書き方を丁寧に説明している。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・ 申告に関しては、主に電話相談による周知を行っていることから、沖縄県HP上の掲示にかかる周知不足が考えられる。

○外部環境の変化

・ 戦争体験者の高齢化や遺族の世代交代などにより、戦没の状況などが不明であるなど、新たな追加刻銘者の認定が難しくなっている。

・ 沖縄戦の戦没者であることの立証資料の収集等、遺族の負担が大きくなってきている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・ 追加刻銘等に係る手続きにかかる遺族の負担を軽減する必要がある。

・ 記念碑であることから、『刻銘の基本方針』に該当することが確認できれば広く刻銘を行っているものではあるが、遺族が世代交代しても戦没者が刻銘されている事が確認できるよう、申告にあたっての戦没者の情報を遺族へ充分周知する必要がある(出身地や氏名に誤りはないか、うろ覚えの情報だけで申告書類を記載していないか、など)。

4 取組の改善案 (Action)

・ 報道機関を活用した周知(具体例:追加刻銘者数発表、刻銘作業の取材依頼を引き続き行う)。

・ 戦没者の立証にかかる遺族の負担軽減とともに、戦没者が刻銘されている事が確認できるよう、平和の礎へ追加刻銘を希望する遺族へ適切な説明を行う(例:戦没者の戸籍簿が存在しない場合は戦没者の当時の状況を知っている人に証明書を書いて沖縄戦で戦没したことを証言してもらうように説明する。実家戸籍を添付するなど出身地情報を確認する等)。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(2)-ウ	アジア・太平洋地域の安定と平和に資する平和人権協力外交の展開	施策	① 国内外に向けた平和の発信と次世代への継承
			施策の小項目名	—
主な取組	沖縄平和賞、ちゅらうちな一草の根平和貢献賞及び平和発信の強化等			
対応する主な課題	①沖縄県では、太平洋戦争で一般住民を巻き込む「鉄の暴風」と呼ばれる凄惨な地上戦が行われ、この戦闘で失われた人命は、一般住民を含め20万人余に及び、貴重な文化遺産等が破壊され、沖縄は文字どおり焦土と化した。この沖縄戦の歴史的教訓を次代に伝え、平和を願う沖縄のこころを世界に発信し、平和協力外交地域として世界平和に貢献することが求められている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
<p>アジア太平洋地域の平和の構築・維持に貢献した個人・団体を顕彰し、その活動を促進する。また、県内で平和に関する社会貢献活動に取り組む個人・団体・学校等を表彰し、県民の平和意識の醸成を図る。沖縄戦の実相の次世代への継承及び平和を希求する「沖縄のこころ」の県内外への発信に取り組む。</p>		第9回沖縄平和賞受賞候補者推薦依頼・詳細調査	第9回沖縄平和賞の授与(1件)	第10回沖縄平和賞受賞候補者推薦依頼・	第10回沖縄平和賞の授与(1件)	第11回沖縄平和賞受賞候補者推薦依頼・詳
		<p>受賞団体への支援 県内外へ受賞団体の活動状況を発信(県HPへの掲載、パネル展等の開催) 募金の協力依頼等</p>				
				第1回ちゅらうちな一草の根平和貢献賞の授与(6件)	戦(いくさ)の語り部功労者感謝状贈呈	第2回ちゅらうちな一草の根平和貢献賞の
実施主体	県、沖縄平和賞委員会					
担当部課【連絡先】	子ども生活福祉部女性力・平和推進課 【098-866-2500】					
	沖縄平和啓発プロモーション					

様式1(主な取組)

2 取組の状況 (Do)



(1) 取組の進捗状況							(単位：千円)			
予算事業名 平和創造・発信事業							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度：第11回沖縄平和賞受賞候補者推薦依頼及び詳細調査を行うほか、沖縄平和賞シンポジウムやパネル展、支援募金を実施した。	
県単等	負担	8,392	17,963	7,677	25,894	8,209	31,141	県単等	OR4年度：第11回沖縄平和賞授賞式、国際平和シンポジウム及び次世代向けのワークショップを開催し、パネル展や支援募金に係る広報等を実施する。	
予算事業名 ちゅうちな一草の根平和貢献賞表彰事業							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度：第2回ちゅうちな一草の根平和貢献賞表彰式及びパネル展を開催した。	
県単等	委託	—	—	—	8,180	4,540	4,352	県単等	OR4年度：受賞者の活動内容や本賞に関する詳細を、ポスターやパネル、リーフレット等にまとめ、パネル展等の実施を通じて認知度向上を図る。	
予算事業名 沖縄平和啓発（継承）プロモーション事業							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度：ワークショップを県内7回、県外2回開催し、シンポジウムを県外で1回開催した。戦後証言映像の多言語編集を行い、WEBを開設して公開した。	
一括交付金（ソフト）	委託	—	—	46,587	39,268	40,897	37,540	一括交付金（ソフト）	OR4年度：ワークショップを県内7回、県外2回開催し、シンポジウムを県外で1回開催する。戦後から復帰までの米軍統治化時代の証言映像収録（20名）を行う。	

様式1(主な取組)

活動指標名	沖縄平和賞の授与及び授賞式の開催				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	—	1件	—	1件	—	—	100.0%	53,646	順調	<p>活動概要</p> <p>第11回沖縄平和賞受賞候補者推薦依頼及び詳細調査を実施するとともに、沖縄平和賞シンポジウムや次世代ワークショップを開催し、沖縄平和賞支援募金に係る広報活動を行った。</p> <p>また、第2回ちゅうらうちな一草の根平和貢献賞表彰式及びパネル展の開催を実施した。</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>計画どおり、第11回沖縄平和賞授賞式に向け、受賞候補者のとりまとめを行った。</p> <p>なお、受賞候補者は、県内を含む国内外の個人または団体となっている。</p> <p>また、沖縄平和賞シンポジウムを1回、次世代ワークショップは2回開催した。</p> <p>加えて令和3年12月には、第2回ちゅうらうちな一草の根平和貢献賞表彰式を実施し、計6者の個人・団体が受賞した。</p> <p>シンポジウムを1回、ワークショップを9回開催した。</p>
活動指標名	ちゅうらうちな一草の根平和貢献賞の授与				R3年度					
実績値	—	—	6件	—	6件	6件	100.0%			
活動指標名	「ぴーすふるシンポジウム」開催				R3年度					
実績値	—	—	2件	1件	1件	1件	100.0%			
活動指標名	「ぴーすふるワークショップ」開催				R3年度					
実績値	—	—	7件	8件	9件	9件	100.0%			
活動指標名	「ぴーすふるメッセンジャー」募集				R3年度					
実績値	—	—	10件	11件	8件	10件	80.0%			

様式1(主な取組)

(2)これまでの改善案の反映状況	
令和3年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none">これまでの情報発信・広報事業に加え、歴代受賞者によるシンポジウム等の取組を実施することで、沖縄平和賞の趣旨や本県の平和への取組を全国に発信し、同賞のさらなる認知度向上に努めるとともに、支援募金者の拡大に取り組む。	<ul style="list-style-type: none">歴代受賞者による沖縄平和賞シンポジウムや次世代ワークショップ、歴代受賞団体の有志で企画したウェビナーを開催することで、沖縄平和賞の認知度向上に取り組んだ。



3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)	
<p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none">受賞候補者の推薦件数をさらに増加させるため、推薦人データベースの運用を改善していく必要がある。沖縄平和賞の運営費全般において、県負担金の占める割合が高い。	<p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none">個人情報保護法の観点から、推薦人データベースの適切な運用が求められている。沖縄平和賞のさらなる認知度向上に努める必要がある。
(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)	
<ul style="list-style-type: none">推薦人データベースの推薦人について、適宜見直しを図る。沖縄平和賞の認知度向上について、周知広報の方法やシンポジウムの企画に取り組む。支援募金を継続するとともに、自主財源確保の方法を模索する。	

様式1(主な取組)



4 取組の改善案 (Action)

・これまでの情報発信・広報事業に加え、歴代受賞者によるシンポジウム等の取組を実施することで、沖縄平和賞の趣旨や本県の平和への取組を全国に発信し、同賞のさらなる認知度向上に努めるとともに、支援募金者の拡大に取り組む。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(2)-ウ	アジア・太平洋地域の安定と平和に資する平和人権協力外交の展開	施策	① 国内外に向けた平和の発信と次世代への継承
			施策の小項目名	—
主な取組	沖縄平和学習アーカイブ運営事業			
対応する主な課題	①沖縄県では、太平洋戦争で一般住民を巻き込む「鉄の暴風」と呼ばれる凄惨な地上戦が行われ、この戦闘で失われた人命は、一般住民を含め20万人余に及び、貴重な文化遺産等が破壊され、沖縄は文字どおり焦土と化した。この沖縄戦の歴史的教訓を次代に伝え、平和を願う沖縄のこころを世界に発信し、平和協力外交地域として世界平和に貢献することが求められている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
戦争を知らない世代に対して、沖縄戦の歴史的教訓の情報を発信するため、これまで収集した沖縄戦体験者の証言等をデジタルコンテンツとして整備し、「沖縄平和学習アーカイブ」サイトにより、インターネットを通して発信する。						
実施主体		インターネットを通して沖縄戦体験者の証言映像等を配信				
担当部課【連絡先】	子ども生活福祉部女性力・平和推進課	【098-866-2500】				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名 沖縄平和学習アーカイブ運営事業							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度： 沖縄戦体験者の証言等を本サイトを通して配信した。	
県単等	委託	1,461	921	1,071	1,200	523	902	県単等	OR4年度： 沖縄戦体験者の証言等を本サイトを通して配信する。平和学習等への活用を促進し、沖縄戦の歴史的教訓を次世代へ継承するため、広報を行う。	

予算事業名 —							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度：	
		—	—	—	—	—	—		OR4年度：	

様式1(主な取組)

活動指標名	沖縄平和学習アーカイブ運営事業				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	配信の実施	—	100.0%	523	順調	令和3年度は、年間を通してコンテンツ配信のためのサイトの公開を行った。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度 of 取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・県のホームページ等を通して引き続き情報発信を行うとともに、関係機関と連携し、教員や平和ガイド等向けに活用法等を掲載したパンフレット等を配布し、アクセス数向上を図る。 ・関係機関と連携を図ることで、国内外に本サイトの周知や利用を促進する。 						<ul style="list-style-type: none"> ・県（女性力・平和推進課、平和祈念資料館）のホームページを通じての情報発信を行い、平和祈念資料館に訪れる修学旅行生等に対して周知リーフレットを配布し、活用の促進を図った。 ・本コンテンツについて問い合わせのあった新聞や教科書出版社等に、本コンテンツの紹介を掲載してもらうことにより、周知及び利用の促進を図った。 ・平成30年度に一時運用を休止した際には、速やかな公開継続を望む声が多く寄せられ、また委譲希望する団体等もみられないため、引き続き県による公開を行っていく。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・コンテンツのサーバーをクラウド化し、保守管理等の委託料コストが大幅に削減できたが、活用促進のための周知啓発を行う必要がある。

○外部環境の変化

・新型コロナウイルス感染症対策等により、インターネットを利用した平和学習などのコンテンツが注目されている。

・本土復帰50周年を迎え、沖縄戦の体験の継承について、社会の関心が高まることが予想される。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・平和学習のコンテンツとして、教員や平和ガイド等向けに活用法等を周知することで、アクセス数向上が図られるものと考えられる。

4 取組の改善案 (Action)

・県のホームページ等を通して引き続き情報発信を行うとともに、関係機関と連携し、教員や平和ガイド等向けに活用法等を掲載したパンフレット等を配布し、アクセス数向上を図る。

・関係機関と連携を図ることで、国内外に本サイトの周知や利用を促進する。

様式1(主な取組)

活動指標名	沖縄全戦没者追悼式の開催				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	1	1	1	1	1	-	100.0%	12,548	順調	冷厳な歴史的事実にかんがみ、戦没者のみ霊を慰めるとともに、世界の恒久平和を願う沖縄の心を発信し、沖縄戦の歴史的教訓を正しく伝え、次世代の子どもたちに平和の尊さを継承するため、6月23日の慰霊の日に沖縄全戦没者追悼式を開催した。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
										新型コロナウイルスの感染拡大により規模を大幅に縮小しての式典開催となったが、テレビ放送により、世界の恒久平和を願う沖縄の心を全国に発信した。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度 of 取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・式典の規模に応じた動員職員の業務割り振り及び適切な人員配置を行い、業務を円滑に実施する。 ・新型コロナウイルス感染対策について、参列者に事前に案内するとともに受付で丁寧な説明をすることにより、入場に時間がかかることへの周知を図り、理解と協力を求める。 ・新型コロナウイルス感染対策を徹底するとともに、注意喚起のため、わかりやすい看板を設置する等の対応を行う。 						<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大により規模を大幅に縮小しての式典開催となったため、動員職員を減員するとともに適切な人員配置により円滑に業務を実施した。 ・新型コロナウイルス感染対策として、入場の際に、検温、マスクの着用確認、手指のアルコール消毒を行う旨を参列者に事前に案内するとともに受付で丁寧な説明をすることにより、理解と協力を求めた。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・新型コロナウイルスの感染拡大により、通常の式典開催は困難であることから、式典の規模に応じた動員職員の業務内容及び人員配置を適切に検討する必要がある。

○外部環境の変化

・新型コロナウイルスの感染状況に収束の兆しが見えず、多くの県民が来場した場合、新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・式典の規模に応じた動員職員の業務割り振り及び適切な人員配置を行い、業務を円滑に実施する。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されることから、感染対策を徹底する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・式典の規模に応じた動員職員の業務割り振り及び適切な人員配置を行い、業務を円滑に実施する。
- ・新型コロナウイルス感染対策について、参列者に事前に案内するとともに受付で丁寧な説明をすることにより理解と協力を求める。

様式1(主な取組)

活動指標名	慰霊塔(碑)の今後のあり方検討				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
		調査実施	調査公表	調査実施	調査公表	-	100.0%	0	順調	令和2年度実施した調査を公表するとともに、各市町村へ情報提供を行った。 またこれらの資料を活用し、糸満市及び浦添市と意見交換を行った。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度 of 取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 新たな振興計画における国への要請事項(慰霊塔管理者への交付金の創設、慰霊塔移設等補助金の拡充)の実現に向け、国と調整を行う。 管理困難慰霊塔検討事業対慰霊塔が所在する市町村へ当該調査結果を提供し、移設等意向のあった慰霊等について意見交換を行う。 						<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度に管理困難慰霊塔検討事業の公表を行った。また当該調査結果を各市町村へ提供し、そのうち糸満市及び浦添市と意見交換を行った。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・慰霊塔(碑)は建立者の財産であり、その維持管理等については本来建立者の責任において行うべきものであるため、そのあり方については、建立者等の意向を尊重する必要がある。

○外部環境の変化

・現在、各団体が建立した慰霊塔(碑)の中には、関係者の高齢化等に伴い、十分に管理がなされていないなど課題が顕在化している。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・管理困難慰霊塔検討事業を実施したところ、土地所有者の意向や管理状況等がそれぞれ異なることが確認されたことから、これらの基礎資料を活用し、国や市町村、関係団体等と連携を図り、個別に対応して問題解決していく必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・新たな振興計画における国への要請事項(慰霊塔管理者への交付金の創設、慰霊塔移設等補助金の拡充)の実現に向け、国と調整を行う。
- ・管理困難慰霊塔検討事業対慰霊塔が所在する市町村と管理実態調査等を踏まえ意見交換を行う。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(2)-ウ	アジア・太平洋地域の安定と平和に資する平和人権協力外交の展開	施策	① 国内外に向けた平和の発信と次世代への継承
			施策の小項目名	—
主な取組	沖縄戦の記憶継承			
対応する主な課題	①沖縄県では、太平洋戦争で一般住民を巻き込む「鉄の暴風」と呼ばれる凄惨な地上戦が行われ、この戦闘で失われた人命は、一般住民を含め20万人余に及び、貴重な文化遺産等が破壊され、沖縄は文字どおり焦土と化した。この沖縄戦の歴史的教訓を次代に伝え、平和を願う沖縄のこころを世界に発信し、平和協力外交地域として世界平和に貢献することが求められている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
対馬丸事件等の沖縄戦の歴史的教訓を次世代に継承するとともに、事業参加者の交流を図る。						
		対馬丸事件等の沖縄戦の歴史的教訓を次世代に継承していくための取組				
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	子ども生活福祉部女性力・平和推進課		【098-866-2500】			

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名 対馬丸平和学習交流事業							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	
県単等	委託	—	4,384	4,404	0	547	4,622	県単等	OR3年度： 小中学生の平和交流を鹿児島県大島郡宇検村にて実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染感染拡大防止の観点から事業の施行を中止した。 OR4年度： 鹿児島県大島郡宇検村と連携し小中学生を対象とした平和学習交流事業を同村にて実施する。
予算事業名							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	
									OR3年度： OR4年度：

様式1(主な取組)

活動指標名	参加人数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
					0	30	0.0%	547	未着手	<p>活動概要</p> <p>沖縄県内の小中学生及びその親（合計で30名）が対馬丸事件の生存者や犠牲者が流れ着いた鹿児島県大島郡宇検村を訪れ、対馬丸事件を学ぶと共に、同村の小中学生と交流する計画であったが、新型コロナウイルス感染感染拡大防止の観点から事業の執行を中止した。</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>参加人数の計画値30名に対し、実績値0名で進捗状況は未着手となった。 要因は新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の中止したことによる。</p>
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度 of 取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> オンライン交流の可能性を模索する。 						<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染感染拡大防止の観点から、事業の執行を中止した。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、参加者や職員の県外への渡航・往来に制限が生じた。
- ・途中、沖縄県内での研修に転換も行ったが、感染症拡大防止の観点より中止の判断となった。

○外部環境の変化

- ・新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、緊急事態宣言などが発出されるなど県外への渡航・往来及び県内での移動・交流に制限が生じた。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・オンライン交流等の可能性を模索する。

4 取組の改善案 (Action)

- ・新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、オンライン交流等の可能性を模索する。